

あぶら

vol.37 アマゾン 世界の精霊

特定非営利活動法人
熱帯森林保護団体 Rainforest Foundation Japan

〒154-0012 東京都世田谷区駒沢1-8-20
TEL: 03-5481-1912 FAX: 03-5481-1913
MAIL: xingu@rainforestjp.com HP: www.rainforestjp.com

[ご住所等変更ございましたらご連絡いただけますと幸いです]

HOW TO HELP	年会費	大人	5,000円
		18歳以下	3,000円

年会費・寄付金振込先

口座名	熱帯森林保護団体
ゆうちょ銀行	郵便振替口座 00140-3-144187
三井住友銀行 東京中央支店	普通口座 7066247

※ 銀行振込の方は、必ずお名前とご連絡先を別途、当団体までご一報をお願い致します。

35回目のアマゾンの旅

35回目、アマゾン往復40,000kmの旅から無事に戻りました。コロナ禍もあり4年ぶりの視察に多少の不安もありましたが、過酷な行程にもかかわらず予定通りにスケジュールをこなせたことは喜びでした。7月24日から28日にわたる「長老ラオーニの呼びかけによる催し」のイベントは他部族インディオリーダー達や報道陣、NGO、ブラジル政府要人も含め、800人近くがシンガー地域の拠点ピアラスに集合し、今後の先住民人権、居住地域の安全な保証等をテーマにインディオリーダーたちが意見を述べる良い機会だったと思います。何より嬉しかったことは、100歳にも手が届くラオーニがすこぶる元気で、心身共にパワーアップして「来年は日本に行きたい」と言っていたことです。いつもは静かなピアラスが大きな白いテント設営やネット設備等、来場者の受け入れ体制を、着々と進めている様に多少の違和感を感じ、何故だろう?と思ったのは、先住民とこの催しを協力する文明側の求める方向性は同じでも、その方法に違いを感じたからだと思います。このイベントの主催者であるAmigos da Terra代表マウロ氏のサンパウロ事務所を訪ねた時、その件が明解になりました。完璧なほどの先住民支援内容計画は、30年以上支援を続けている私にとっては驚きでした。もしこの通りにインディオの人たちが同意し行動したら、それなりの成果は瞬く間に出るだろう。でもそうはいかないのが現実。私はあっちにぶつかり、こっちに寄ったりと、試行錯誤の連続。支援事業の失敗も沢山あったし、がっかりしたことだって数知れない。でもインディオの人たちの考えに多少の問題があっても、それを飲みながら一緒に行動し、彼らの考えを尊重して私は支援してきたし、これからは効率は悪いかもしれないけどこのスタイルで続けていきます。そして今回のブラジルNGOとの出会いもお互いに違いを認め合いながら、情報交換もしていけたらいいなあと思いました。アマゾンの森の守り人、インディオの人たちの存続を望む志は、皆同じだからです。

そして嬉しかったことは、次世代の女性リーダーと話ができたことです。イアラピチ族のワタカル、彼女の両親と旧知の中でよく泊めてもらっていましたが、今は二人とも旅立ってしまいました。もう一人はメガロンの長女マヤルです。これからの時代は女性がもっと前に出てくるべきなので、女性中心の支援事業の応援を約束しました。

現在、当団体が支援している熱帯林を火から守る「消防団事業」とインディオ経済的自立を目的とする「養蜂事業」は現場からの声を聞き、スムーズに進んでいることに安堵し、良き旅をいざなってくれたシンガーの神々、精霊さんに感謝しました。
(南 研子)

O CHAMADO DO CACIQUE RAONI

長老ラオーニが呼びかけた集会



「長老ラオーニが呼びかけた」集会の最終日7月28日、本来はカヤポ族のテリトリーであったカポト・ニーノレ(3622.43ha=東京ドーム約800個分)を先住民保護区として正式に承認する調印式が執り行われた。1980年からラオーニをはじめとするカヤポ族の悲願であったので、この催しに集まった800人は涙した。しかし、この土地は既に201人の牧場主の所有地になっているため、今後の混乱が予想でき憂慮する。



世界でも類のない、アマゾン シンガーの蜂蜜

20,000kmを旅してきたシンガー・ジャングルの蜂蜜。めったに手にすることが出来ない珍しい蜂蜜を現地から背負ってきました。アマゾンの風を感じて頂けたら嬉しいです。

ご注文方法

名前・住所・電話番号・注文番号・注文数(ひとり2個まで)
をご明記の上、こちらまでお申し込みください。※送料は別途ご負担頂きます

メール: xingu@rainforestjp.com FAX: 03-5481-1913

※売上は養蜂プロジェクトの資金とさせていただきます



① Kalapalo ¥7,000 (税込・送料別)
原材料: ピキの花の蜜 / 内容量: 140g

② Mirassol ¥10,000 (税込・送料別)
原材料: ピキ・ジッポ・レイテイロの花の蜜
内容量: 140g



■ ありがとうシングーの森

RFJ理事 松田 ナオミ

まず、2023年7月16日から帰国の8月19日までの1ヶ月、私にとっては5年ぶりのアマゾンから、研子さんと二人とも病気も怪我もなく無事に戻れたことを深く感謝します。そして私の森での体験をお伝えします。

7月27日朝、大集会が行われているピアラス村 (RFJはこの村では消防団のプロジェクトを行っている) を後に、セスナでシングーの森に向かった。ジャングルの村カラパロは緑豊かで美しい湖がある。人々は活気に満ちみんな澁刺としそして穏やかだった。自然が豊かだとこんなにも幸せそうな表情になるんだなと納得させられる。昼は暑すぎて働けないので日の出前から女性たちはマンジョオッカ芋を摺り下ろし毒抜きをして保存



のための澱粉を取り出す作業。その横では火を起し大きな土鍋で乾燥したマンジョオッカに水を少量加えて主食のベジュを焼く。私たちもそれを分けてもらったり、シングー川で釣った美味しい魚を分けてもらって大満足の食事。私的にはブラジルの街の食べ物より、森の中のインディオの方がはるかに美味しかった。支援プロジェクトのひとつ養蜂の現場にインディオの養蜂士たちと行く。これは昼の作業なのでこの上なく暑い。白い宇宙服みたいな防護服を着てジャングルに入る。とにかく暑い。森の中はやっぱりカラッカラで温暖化は確実に進んでいるのを実感する。蜜蜂箱は蓋を開けたとたん、蜂がブンブン顔を目掛けてぶつかってくるので思わず逃げる。25個あった蜂蜜箱は20個も大型のアルマジロに喰われてしまったと、ちょっと悲しそうだけどまあ何とかなるって顔のインディオたち。森の中には白い花びらで長い雄しべがゆらゆら揺れるピキの花木があちこちにある。今年の蜂蜜はピキの花の蜜が沢山入っています。森にいる間は村の家に泊めてもらいハンモックが私の場所になる。夕暮れ前に近くの湖に水浴びに行く。湖に向かって一直線の道をスクーターが風を切って走る。とちょうど日没。赤い大きな太陽のあまりの美しさに息を飲む。湖も赤く染まってインディオのシルエットがクッキリと浮かぶ。子供も大人も男も女も水をかけ合ってはしゃいでいる。そして太陽が完全に沈むと虫の声と共に真っ暗な森がやってくる。インディオたちは自然に逆らわず自然に自分たちを合わせて生きている。

4箇所の養蜂の村を6人乗りの小さなエンジン付きボートで回った。日の出前に村を出てトラックで船着場へ。そこからボートで2時間。ブリキの椅子でお尻にアザができた。風と一緒に細かな砂つぶがバシバシ顔に飛んでくる。日が出るとカンカンに暑くなり川の水でタオルを濡らして頭に乘せる研子さん。インディオは突然止まって魚の網を仕掛けたりもする。幅の広いシングー川から支流に入り川幅のやけに狭いところもぐってゆく。少し前まではワニやカピバラの親子が見れたよとインディオのあばさんが教えてくれた。ボートはいくつにも分かれる支流を間違えることなく次の村へとビュンビュン進んだ。まだまだいろんな出来事があったのですが、とにかくインディオの人たちは自然に逆らわず、自然を尊敬し感謝と畏敬の念を持って日々暮らしています。とても当たり前のように自然に溶け込んで、森があればインディオの人々は生きてゆける。その彼らの暮らしを守ることは森を守ることに繋がります、結果地球を守り、私たちの日々を守ってゆくことになると実感しています。



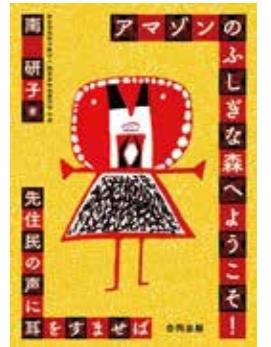
「アマゾンのふしぎな森へようこそ！」 ～先住民の声に耳をすませば～ 南 研子 著

● 装丁・口絵

ART Is主催者ふくしまアヤさんのパートナー、今をときめくアートディレクター石井勇一さん

● 章トビラ挿絵

MWアトランティスファクトリーの30年来の友、松田シードさん



お二人のエネルギーに助けて頂き書き上げたアマゾン体験記です。中学生から大人まで、沢山の方に読んで頂けますよう宜しくお願いいたします。

2023年9月26日発売!

著者 南 研子 出版社 合同出版
価格 1,980円(税込)



「アマゾン先住民から南研子へ深い絆と感謝のアート展」
を再び開催いたします!

沢山のあなたのお越しを
お待ちしております。